

要介護高齢者と介護職員の脱アサイラム研究

——特養ホームにおける介護自治文化の形成過程のフィールドワーク——

序論	〈エンリッチ・エイジング〉と介護自治文化の形成	7
----	-------------------------	---

本論 〈エンリッチ・エイジング〉の実態

第一章	〈エンリッチ・エイジング〉の学問的検討	13
-----	---------------------	----

第一節	「プロダクティヴ・エイジング」と「サクセスフル・エイジング」	14
-----	--------------------------------	----

1	「プロダクティヴ・エイジング」	14
---	-----------------	----

2	「サクセスフル・エイジング」	15
---	----------------	----

3	両概念の関係性	17
---	---------	----

第二節	〈フレキシブル・エイジング〉と〈コンシャス・エイジング〉	19
-----	------------------------------	----

1	フレキシビリティ	19
---	----------	----

2	〈フレキシブル・エイジング〉	21
---	----------------	----

3	〈コンシャス・エイジング〉	23
---	---------------	----

第三節	エンパワーメントとエンリッチメント	25
-----	-------------------	----

1	エンパワーする高齢者	25
---	------------	----

2	エンリッチメントへの着目	27
---	--------------	----

第四節	〈エンリッチ・エイジング〉	27
-----	---------------	----

1	存在するだけで癒し機能をもつ要介護高齢者	27
---	----------------------	----

2	「繋がっている感覚」とregenerative community	30
---	-----------------------------------	----

3	〈エンリッチ・エイジング〉	31
---	---------------	----

第五節	小括	32
-----	----	----

第二章	アサイラムとしての特養	37
-----	-------------	----

第一節	アサイラム研究の概要	37
-----	------------	----

1	アサイラムの誕生とその衝撃	37
---	---------------	----

2	アサイラムの特徴	39
---	----------	----

第二節	職員と被収容者の「根源的裂け目」	40
-----	------------------	----

1	被収容者の「自己の無力化」	41
---	---------------	----

2	「自己の無力化」を回避するための「第二次的調整」	45
---	--------------------------	----

3	被収容者の類型化	47
---	----------	----

4	職員の葛藤	49
---	-------	----

第三節	盟友と〈第三次的調整〉	52
-----	-------------	----

1	「身内化過程」	53
---	---------	----

2	つかず離れずの〈微妙な関係〉	54
第四節	アサイラムにおける儀礼の役割	57
1	被収容者の生活文化	58
2	儀礼による「役割解除」	61
第五節	ユニットケアの推進と〈介護業務構造〉の改革	64
1	大規模処遇の《特養システム》から小規模処遇のユニットケアへ	64
2	介護職員の労働意欲を高める〈介護業務構造〉の改革	66
第六節	小括	67
第三章	特別養護老人ホーム小史と厚生労働省型介護文化	73
第一節	特別養護老人ホーム小史	73
1	老人福祉法以前	73
2	老人福祉法以後	78
3	公的介護保険制度実施後の特養	82
第二節	厚生労働省型介護文化	86
1	厚生労働省型介護文化の三つの柱	86
2	ユニットケアの推進	88
3	新しいケアモデルとしての認知症高齢者ケアの普及	
4	介護技術の向上：介護職の専門性とケアの標準化	96
第三節	小括	101
第四章	研究の方法	109
第一節	分析の視点	109
第二節	分析の枠組みと仮説	111
1	入所者と介護職員の関係性の分析枠組み	112
2	介護自治文化の分析枠組み	114
3	仮説の提示	117
第三節	調査の方法	118
第五章	調査対象の特養	123
第一節	経営熱心・家族密着型——鹿児島都市圏の特養K園	124
1	K市の地域性	124
2	特養K園の概要	130
3	特養K園の経営陣	133
第二節	経営責任回避・地域融合型——奄美離島圏の特養S園	140

1	S島の地域性	140
2	特養S園の概要	147
3	特養S園の経営陣	150
第三節	経営者不在・地域孤立型——札幌大都市圏の特養T園	154
1	T町の地域性	154
2	特養T園の概要	159
3	特養T園の経営陣	163
第四節	小括	168
第六章	アサイラムの生活過程——入所者の世界	179
第一節	「自己の無力化」	181
1	「自己の無力化」要因	181
2	「自己の無力化」と特養の理念型	182
3	「自己の無力化」の多様性	182
4	「役割剥奪」と「肉体的汚辱」	183
第二節	「自己の無力化」の情緒的回避	185
1	「ハビトゥス」による回避	185
2	反面教師としての回避	186
3	優越感と特別感による回避	187
第三節	〈第一次的調整〉と「第二次的調整」	188
1	「第二次的調整」	188
2	〈第一次的調整〉	190
3	二つの調整の体系化：対抗的，情緒的，同調的，そして指導的	191
第四節	〈第三次的調整〉	193
1	〈近すぎずの関係〉と〈遠すぎずの関係〉	194
2	〈近すぎる関係〉と〈遠すぎる関係〉	195
第五節	認知症高齢者における「自己の無力化」	197
1	認知症への無知と認知症高齢者差別	197
2	良いボケと悪いボケ	199
3	ヒーリング機能をもつ認知症高齢者	200
第六節	特養入所者の4つの理念型	203
1	戦略ドラマトゥルギー型	204
2	孤立チャレンジ型	206

3	協調サティスファイ型	208
4	模範パッシブ型	209
第七節	小括	211

第七章 アサイラムの労働過程——職員の世界……………215

第一節	介護労働の実態	216
-----	---------	-----

第二節	目標とする介護サービス	217
-----	-------------	-----

1	ユニットケアの推進	218
---	-----------	-----

- (A) 個室化 (B) ユニットケアを阻む要因 (C) 措置感覚のケアハビトゥスと契約感覚のケアハビトゥスの分離 (D) 感情労働としての介護労働

2	新しいケアモデルとしての認知症高齢者ケアの普及	
---	-------------------------	--

221

- (A) 認知症高齢者の実態 (B) 認知症高齢者の家族への配慮 (C) 寄り添いケア (D) 家庭的な雰囲気

3	介護技術の向上	226
---	---------	-----

- (A) 施設外研修 (B) 施設内委員会 (C) 介護心 (D) 信頼関係の形成 (E) 観察力 (F) 不穏者対応 (G) 上司と連携した介護

第三節	介護職員の良き相談相手	237
-----	-------------	-----

1	良き相談相手	238
---	--------	-----

- (A) 相談できる相手 (B) 相談される相手 (C) 介護労働による自己成長 (D) 介護職員におけるジェンダー

2	若手介護職員とベテラン介護職員の対立	241
---	--------------------	-----

- (A) 若手とベテランの棲み分け (B) 介護職員と非介護職員の関係 (C) 専門学校時代の同級生との交流 (D) 若手とベテランのケアハビトゥスの相違 (E) ユニットケアのチームワーク介護

第四節	介護職員の抱える葛藤	251
-----	------------	-----

1	「根源的裂け目」	251
---	----------	-----

- (A) 引き裂かれる介護職員 (B) 人手不足

2	労働関係における葛藤	256
---	------------	-----

- (A) 若手介護職員とベテラン介護職員の葛藤 (B) 経営陣と介護職員のあいだの葛藤

3	身体介護業務と生活支援の葛藤	259
---	----------------	-----

- (A) 部屋割りにおける葛藤 (B) ユニットケアの組み合わせ方をめぐる葛藤 (C) 認知症高齢者ケアにおける葛藤 (D) 措置感覚と契約感覚の葛藤 (E) 葛藤の回避

4	介護労働の疎外化とその回避	268
---	---------------	-----

(A) 介護労働の疎外化 (B) 介護労働の疎外化の回避 (C) 介護労働過程の総括	
第五節 給与体系と労働評価	275
1 能力主義型か, 年功序列型か	276
2 経営陣, 同僚, そして入所者からの介護労働評価	277
(A) 経営陣の介護労働評価 (B) 同僚の介護労働評価	
(C) 入所者の介護労働評価	
第六節 小括	284
第八章 脱アサイラム化と〈介護業務構造〉	289
第一節 入所者の生活文化	290
1 認知症高齢者の生活文化	291
2 自立高齢者の生活文化	292
3 認知症高齢者に対する自立高齢者の見方	295
4 生活指導員からみた入所者の生活文化	296
5 組織を一体化させる脱アサイラム精神	299
第二節 介護職員の介護自治文化	302
1 措置から契約への介護意識変化	302
2 情報の共有化の徹底	303
3 働きやすい環境	305
4 社外研修による介護自治文化の草の根的見直し	306
5 ユニットケア文化	309
第三節 厚生労働省型介護文化に対する態度	312
1 措置・収容型介護文化	313
2 契約・生活型介護文化	316
第四節 〈介護業務構造〉	323
1 介護技術と介護職人気質	323
2 業務改革機能と目安機能をあわせもつ〈介護業務構造〉	327
第五節 小括	331
結論 〈エンリッチ・エイジング〉と〈21世紀型介護自治文化〉の形成	337
参考文献	347
あとがき	355